



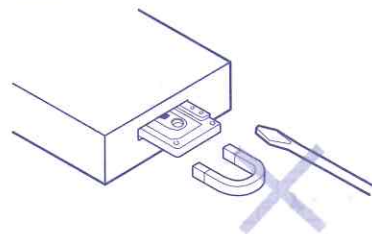
○リピート ボタン



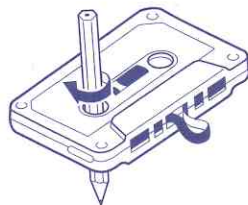
同じ曲をくり返して聞くとときは、繰り返して聞きたい曲が再生されているときにリピート ボタンを押します。このときディスプレイ部には“RPT”が表示されます。解除されるまで何度でも同じ曲が繰り返し再生されます。もう一度押すと解除されます。

アドバイス

- エンジン停止時はラジオ、カセット ステレオを長時間つけたままにしないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- 本機は、水分や高温、多湿、ほこり、ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分ご注意ください。
- ヘッド及びカセット テープに、磁石やドライバー等を絶対に近づけないでください。



- カセット テープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので、テープのゆるみを直してからご使用ください。



- テープの挿入口にはカセット テープ以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- カセット テープは、水平にし、カセット テープの中央を押し挿入してください。

アドバイス

- C-90以上の長時間カセット テープは使用しないでください。テープ自体が非常に薄く、テープが伸び、カセット デッキに巻き込んだり、切れたりするおそれがあります。
- ラベルのはがれかかったカセット テープ、またケースが変形しているカセット テープのご利用は避けてください。メカニズムの故障の原因となります。
- ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため、ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニング テープを使用すると便利です。なお、クリーニングにはシンナーやベンジンは絶対に使用しないでください。故障の原因となります。
- 車内の温度に気をつけてください。極寒や酷暑のとき、とくに夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。また、車を降りられる時には、必ずカセット テープを本体から抜いてケースに入れて高温とならない場所に保管してください。
- 本機のお手入れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、ベンジン、シンナー、アルコール等は絶対に使用しないでください。本機の損傷の原因となるおそれがあります。また、汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽く拭き取ってください。
- カセット テープを直射日光に長時間あてないでください。高温、多湿の場所（インストルメント パネルの上やシートの上など）への長時間放置もさけてください。テープがひずみ、使用できなくなるおそれがあります。

■ CDの操作方法 ■

1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
2. ディスク ボタンを押すとCDが再生されます。また、ディスクのラベル面を上にしてディスク挿入口にディスクを差し込むと、自動的に演奏が開始されます。



アドバイス

- プレーヤー内部を保護するため、異常が生じたときは自動的にプレーヤーの機能が停止します。下記表示が出た場合、次の処置をしてください。
 - ・“Err”の表示が出たときは、CDイジェクト ボタンを押してください。
 - ・“WAIT”表示が出たときは、表示が消えると自動的に再生を開始します。



○早送り、早戻し



選曲するとき

トラック ボタンを押し、ディスプレイ部で希望の曲番を選びます。曲の再生中にVを押すと、その曲の始めに戻ります。このときもう一度押すと前の曲になります。

- 次の曲を再生する場合はV側
- 前の曲を再生する場合はV側

早送り、早戻しするとき

トラック ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。そのまま押し続けている間、聞いている曲が早送り、早戻しされます。ボタンから手をはなすとその位置から再生を始めます。

- 早送りの場合はV側
- 早戻しの場合はV側

○CDイジェクト ボタン



CDイジェクト ボタンを押すとディスクが飛び出します。CDが取り出されるとCD挿入前の状態に戻ります。

アドバイス

- エンジン スイッチを“LOCK”にするとディスクを取り出すことができません。エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にして取り出してください。

○リピート ボタン



同じ曲をくり返して聞くときは、繰り返して聞きたい曲が再生されているときにリピート ボタンを押します。このときディスプレイ部には“RPT”が表示されます。解除されるまで何度でも同じ曲が繰り返し再生されます。もう一度押すと解除されます。

○ランダム ボタン



ランダム ボタンを押すとランダム（無作為）に再生されます。このときディスプレイ部には“RAND”が表示されます。解除するまでランダムに曲が選択され、再生されます。もう一度押すと解除されます。

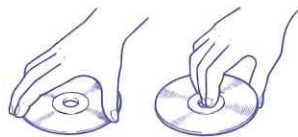


アドバイス

- 本機には下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタル オーディオ ディスク）をご使用ください。



- ディスクを持つときは、信号面をさわらないようにしてください。両端をはさむようにしてつか、中央の穴と端をはさんで持ってください。



- ディスクは本機内部で高速回転しますので異常なディスク（ハート型など異形のディスク、ヒビが入ったディスクや大きくそったディスク）は使用しないでください。



- ラベル面（曲目印刷面）にも紙やシールなどを貼付けたり、キズなどを付けないようにしてください。
- ディスクに指紋やホコリが付いた場合でもディスクに記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下したり、音飛びを起こす場合があります。ディスクが汚れたときは、柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。

アドバイス

- レコード スプレー、帯電防止剤などは使用できません。またベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品をかけると表面が侵されることがありますので使用しないでください。



- ディスクは従来のオーディオ レコードと同様にプラスチック製です。そらないように必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管して下さい。
- 真夏や真冬は、車内の温度が極端に変化していますので、車内を適温にしてご使用ください。
- ディスク差し込み口に、ディスク以外のものを入れたり、磁石やドライバー等を絶対に近づけたりしないでください。
- 振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- ディスクをイジェクト状態のまま長時間放置しないでください。直射日光などの影響によってソリの原因となります。ディスクは必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管してください。
- 8cm CDをイジェクト状態のまま走行しないでください。走行中の振動によりディスクが落下することがあります。
- 真冬の車内は極度に冷えています。この状態でヒーターを入れて、すぐに本機を使用するとディスクや光学部品（プリズムやレンズなど）が曇って正常な演奏をおこなえないことがあります。ディスクが曇っているときは、柔らかい布で拭いて下さい。光学部品が曇っているときは、1時間ほど放置しておけば自然に曇りがとれ正常に作動します。



アドバイス

- 本機の内部温度が基準以上の高温になると半導体レーザー部の劣化を保護するために、自動的に演奏をストップさせます。このときディスプレイ部は“HEAT”を点灯し、温度上昇を知らせます。この状態のときは温度が下がるまでお待ちください。

■時計を非表示にするには■

○時計表示をモード表示に切り替えるには

通常は時計表示になっています。オーディオ動作中に、そのモードを表示するか時刻を表示するかを選択することができます。



エンジン スイッチを“ACC”にし、本機の電源を“OFF”にします。選局 (4) ボタンを押しながら、チューニング ボタンの△側を押します。時計表示に戻すときは、再度同じ操作を繰り返します。

○モード表示中に時刻を確認するには



モード表示中に、AM/FM切り替えボタンを約2秒以上押します。



■時刻を合わせるには■



○「時」を合わせるには

時計表示時に、AM/FM切り替えボタンを押しながら「時」調整ボタンを押します。

- ボタンを押すたびに数字が1つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると連続して数字が大きくなります。

○「分」を合わせるには

時計表示時に、AM/FM切り替えボタンを押しながら「分」調整ボタンを押します。

- ボタンを押すたびに数字が1つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると連続して数字が大きくなります。

○分を「00」にするには

時計表示時に、AM/FM切り替えボタンを押しながら時刻合わせボタンを押します。

アドバイス

- 分を「00」にする際、現在の「分」によって「時」の数字が異なります。
30分未満のとき：現行のまま
30分以上のとき：数字が1つ増える
例えば、10:20は「10:00」 10:45は「11:00」となります。

AM/FM付CDステレオ

⚠ 注意

- 運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量で鳴らすと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり思わぬ事故につながります。

📖 アドバイス

- オーディオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うとノイズ（雑音）が入ることがあります。

■各部の名称■

